

■松田会長挨拶

皆さんこんにちは。各団体、各企業の皆さん大変、お忙しい時期ではなかったかと思いますが、こうしてジオパーク推進協議会の 27 年度総会を開催させて頂きましたが、今日は全員参加頂くことになっております。誠にありがとうございます。さて、本年度は交流人口の拡大という大きなテーマがありましたし、それから地域の皆さん方にこの隠岐世界ジオパークについてどうやって関心を深めて行くか、こういった 2 つの問題を抱え、そしてそれらの向上を目指して様々な取組が 4 町村で行われて参りました。その効果もありましてか、観光客を含めた交流人口でございますが、平成 10 年以来初めてこの対前年度で増加の見込みとなったところであるかと思っております。また地域住民の皆様方の関心度も徐々にではございますが、高まって参ってきておまして、色々な場面におきましてジオパークとの共同事業も各町村ともに現れてきているように思っています。平成 25 年度 9 月 9 日に隠岐郡島が世界ジオパークの仲間入りをして、以来 3 年の月日があっという間に過ぎ去りましたが、昨年 11 月にはご案内のようにユネスコ総会におきまして、世界ジオパークの活動がユネスコの正式プログラムになっております。このことによりまして、私たちは、隠岐地域だけの発展を目指すのではなくて、日本やそして世界のジオパークのリーダー格となりまして、ジオパークの推進に更に努めて行かなくてはならないということではないかと思っております。本年の 10 月には日本ジオパークの再認定が行われ、そしてまた翌年 29 年 7 月にはユネスコ世界ジオパークの再認定審査が行われるようにもう既に決まっています。日本ジオパーク或いは世界ジオパークの再認定審査をクリアしていかなければならないということは勿論でございますが、改めて隠岐の人々が隠岐に生まれた事への誇りと愛着を持ち、愛情を持ち、そして隠岐の魅力を悔いのないように情報を発信して行かなくてはならない、このようにも考えているところでございます。ユネスコ世界ジオパークのガイドラインには、持続可能な地域社会の発展が掲げられております。持続可能な社会を作り出していくということのためには、やはりこの教育機関と連携をして、ジオパークを活用した教育の更なる充実を目指して参らなくてはならないということは申すまでもないかと思っております。本日は平成 27 年度の事業報告、或いは決算見込み、そして 28 年度の事業計画なり、予算案についてご審議を頂きますと共に、推進協議会の規約改正についてもご審議を頂くこととなっております。どうか一つ 4 時半まで 2 時間という長丁場でございますが、宜しくお願い致しまして、開会のご挨拶に代えさせて頂きたいと思っております。

■環境省新中さん挨拶

H25 年から隠岐に赴任し、国立公園ビジョン、環境教育プログラム、エコツアー等ジオと連携して作りました。H28 年 4 月からは、北広島町役場勤務（隠岐の取り組みからまちおこしたい）となります。後任として同期が 4 月から参ります。

(野辺)

新中氏は、環境省事業として環境省事業では、外来種駆除、学校教育などジオパークへの大きな支援を行った。

(野辺)

今回の出席は、41団体中27団体出席、欠席14団体は委任状で総会成立。

## 2. 協議事項

### (1) H27年度事業報告

(野辺) 主な事業について説明 (総会資料概要版参照)

#### ① 山陰海岸ジオパークとの連携事業の実施

レインボージェットを鳥取県がチャーターし、モニターツアーを実施。H28年は、4月第1週の所でレインボーをチャーターして島前、島後のツアーをする予定。

#### ② JR 東海・山陽新幹線の車内誌での隠岐世界ジオパークの紹介

JR 東海の月刊「ひととき」に取り上げられた。今までは、こちらからお金を払い、書いてもらっていたが、編集者の方から依頼があった。9月以降この車内誌を見て隠岐に来られた人もいた。

#### ③ 隠岐世界ジオパークフェスタの開催

H26、H27の開催で昨年は、4500人の来場があった。松江の中でも楽しみにしている人がおり、2年度の開催が定着している。H28も引き続き開催。今までは会場をメッセの大展示場1/3使用していたが、今度は2/3で倍の広さで実施。

#### ④ 隠岐空港開港50周年記念イベントへの参加

隠岐空港の名称が、隠岐世界ジオパーク空港となった。ジオパークが付いている空港は隠岐のみ。機内アナウンスでも紹介し来島者へのPRにつながっている。

#### ⑤ 隠岐体験事業の実施

島根県主催で、島根県内の小学生を対象とし隠岐への学習旅行で約80名が参加。8月中に2回開催予定でしたが、1回は台風のため中止。H28も実施。

#### ⑥ ジオ給食の実施

世界ジオパーク認定を記念して、ジオ食メニューコンテストを開催し、最優秀賞の2点について給食で提供した。全島で9月9日前後に実施し、子ども達の考えたメニューに

調理師や学校の協力もあり、好評だったので、H28も実施。

⑦ 第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク会議への参加

昨年9月に開催され、事務局と隠岐高校・隠岐島前高校生と参加。参加した高校生が英語でポスター発表し、外国の方と直接英語で会話し、良い経験となった。今後、国際会議に高校生、中学生を参加させて、グローバルな人材の育成に努めたい。

⑧ 世界ジオパーク活動のユネスコ正式事業への昇格

昨年11月に開催されたユネスコの総会において、世界ジオパークの活動がユネスコの正式事業となり、隠岐ユネスコ世界ジオパークに名称変更。

⑨ 観光庁事業の採択

全国31事業採択のうち1つが隠岐。観光庁が直接執行する事業として3つあり、1つ目は、協議会で作成している空撮について、8カ所追加分をこの事業で実施。2つ目は、ホームページで提供するバーチャルジオツアーの制作で、隠岐に来ない理由が「行き方が分からない」「島をどうまわって良いのか分からない」と言う理由が多く、初めて訪れる人が簡単にモデルコースを作れるように、空路・海路・泊数などを入力するとそれにあったモデルコースを内航船等の時間等も含めて表示する。これにより具体的に島をまわるイメージが出来る。60箇所を箇所を設定しているが、今は試行的なので、今後もっとバリエーション豊かにしてから、外部に発表。3つ目は、多音声ガイドシステムの構築。外国人の来島が増えており、そのうち半分がフランス人。1000人くらい隠岐を訪れているなかで、75%が欧米から。ガイドが外国語で説明するのは難しいので、音声で英語・フランス語で案内するもの。駐車所などの道案内も含めた音声ガイドシステムが出来た。近々観光協会に渡して試行的に使ってもらう。現在30箇所なので、更に追加し、より充実させる。今回は、日・英・仏ですが、今後、中・韓も入れていく。

⑩ 隠岐ユネスコ世界ジオパーク全体構想（案）の作成

これについては後で詳しく説明しますが、今後再認定や5年後、10年後に向けてどのようにジオパークを運営していくかをまとめたもの。これをたたき台として、今後公開し、4、5月にパブリックコメントを頂き、完成は5月末頃。

資料 P22

36. 隠岐高校・隠岐島前高校との交流事業の実施

今、それぞれの高校が良い取組をしているが交流がないので、今回初めて隠岐高校が島前に行く取組をした。今後隠岐水産高校も含め3校で実施していきたい。

## 資料 P25

### 46.認定ガイド養成講座の開催

10年以上前からガイド養成講座として色々な取組をしたが、認定制度は作っていなかった。ユネスコジオパークの再認定の審査の時にジオパーク全体の説明ができるように、各会場で今年度から実施。講座内容については、P 26. 27で、全体で約20時間以上の講座を受ける。先月認定ガイド認定試験があり、31名が合格(2級ガイド)。今後更に、2級の人が1級やマイスターになるように取り組んで行きたい。

#### ■質問

(横地)

島根県体験交流施事業は県実施ですが、本土の方から子ども達を学校単位で募集することですか？

(野辺)

そうです

(横地)

ジオ給食のメニューの具体的な内容は？食事の内容は？

(野辺)

#### P 20 2種類のメニュー

一つはサザエのようなパンの中にトビウオのすり身を使った隠岐コロネ。もう一つはアラメなどを使ったものとの2種類。隠岐の食材を使って子ども達が色々な食事メニューを作っている。

(横地)

ユネスコの事業化は格上げということで良いですか？今まで格下のような感覚でしたが、ジオパークも世界遺産と同じような同格のような立場になったとう受けとめでいいか？

(野辺)

はい。

(横地)

観光庁の事業については、どんどん進めて頂いて良いことです。観光協会との連携も執っているだろうが、観光事業と交流事業との関連を持たないといけないと思うので、宜しくお願いします。

(野辺)

はい。

今作っている動画は近々HPに載せる。テレビ会社に空撮映像を提供していて、ユネスコジオパークへの大人の修学旅行というコマーシャルをしているが、今までは写真で紹介していたが、空撮はみなさんに好評。それも観光協会でも使ってもらおう。

(横地)

隠岐へのアクセス（船の乗り方）が分かりづらいので、こういうのがあるといい。

（野辺）

船の乗り方など分からないので、乗船名簿の書き方の動画などを撮って配信（バーチャルジオツアー）。本土から来ると港が2つあるので、そうしたことも詳しく分かるようにする。

（齋藤）

いくつか質問がありますが、先ほど紹介のあった隠岐体験事業は定住財団がした事業ですが、推進協の事業ですか？

（野辺）

サポートしている。

（松浜）

協力したということですね。台風で中止になったと言っているが本土でもやっているの  
で、実際には中止ではないですよ。

（野辺）

そうですね。

（齋藤）

正式事業化になって何が変わるのか？昨年の世界ジオパーク認定記念のシンポジウムは  
これからのジオパークはどうなるかの方向性がなかった。予算が付くとかブランド化を  
するとか期待していたが、あまり変化が感じられない。それをどう思っているか？

認定ガイドについて、隠岐の認定ガイドとして学習して、いろいろ問題を作っているが、  
JGNの委員の先生がその中身を見て、それで良いとしたりするのか？日本ジオパーク  
ネットワーク委員会の先生などが見て、良いなどと言うことになっているか？

（野辺）

正式事業化の効果としてはいくつかある。これまで正式な国の窓口がなかったが、文科  
省の中のユネスコ国内委員会が窓口となる。また、国会議員の議員連盟ができた。H2  
8年4月の日本ジオパークの幹事会で、首長ネットワーク（要望団体）を作り議員連盟  
に要望することになった。今、地方創世交付金の中に提案型の地方創世交付金があり、  
ジオパークを活用した地域作りの提案をすると、採択率が高くなる。H27年度は各地  
でジオパークを活用した地域作りを提案し、上乘せ分を取っている地域が多い。  
決算見込みの話ですが、H27年度、約4千万地方創世交付金である。H28年度は5千  
万の交付金について申請。資金的な部分での国の支援がイメージ出来る。

認定ガイドについて

それぞれ各協議会等でしている。その評価については、再認定の現地審査でどのような  
活動でどのような実績を残してきたかという経過報告書を書いて申請するが、そこで制  
度や人数を出していき、審査員が評価。

(齋藤)

正式事業化でなにが変わるかということで、予算的には変わるということですが、中国が国策でやっているように国民が知らないで正式事業になっていかないと。国民と一緒にやらないと浸透しない。教育の中に入れるなどしないと知名度など上がっていかないので、その辺に力を入れて欲しい。

認定ガイド

JGNはジオパークのブランド化する気がないので、各地区まばらにやると、ガイドの中身の違いが出てくる。基礎を押さえてなくてガイドが勉強をしていると、ガイドの中身が統一されてなくておかしくなる。そういう所が今欠けている。生物の多様化に直結するような知識がないままなので、そういう中身をきちっと押さえて、他地域との共通の知識を持つような内容でして欲しい。その辺を隠岐発信でして欲しい。

(野辺)

隠岐は、日本だけではなく世界のリーダー役になっていきたいと考えている。隠岐は先進的な取り組みをしているので、その辺もやっていきたい。ユネスコ正式事業化になって、ジオパークの基準が上がってきている。その中で、ガイドの基準やテクニックも高いものが求められるので、ガイドの質を上げて、交流人口の増加に努めていきたい。

資料6-1について

推定入島客数のグラフがある。H27年度は初めて上向きになっている。これがH28年度減少となるとジオパークに対する期待も変わってくる。出来るだけ右肩上がりを目指して行く。そのためにも齋藤さんが言われるような地域への周知に努めていきたい。具体的な事業計画については全体構想の中で触れていく。

(総会)

H27年度事業報告について承認

(2) H27決算見込み

資料 P32

収入の内訳について

負担金の所で、51,842千円が町村の法例外負担金  
2千万が地方創生交付金の10分の10を充てている  
島根県が32,000千円を負担(事業費の1/2を県が負担)  
各町村派遣職員の人件費は各町村負担  
県の負担金の2分の1は地方創世交付金  
県と町村の負担金を合わせた4千万について地方創生交付金で充てている

補助金としては、環境省の補助金申請  
島根県観光振興課から 100 万の補助金

#### 支出について

派遣職員臨時職員雇用（西ノ島、海士）  
需用費の増は、臨時職員増しの机など備品、電話回線を独自で引いた  
GGN/JGN 運営費については、国際会議のフィンランド大会をやめた減  
（APGN が山陰海岸であり、高校生を初めて連れていくため）  
費用弁償の増は、APGN 国際会議に高校生を連れて行ったため  
連絡調整費は、協議事項が増えているため

#### 拠点施設整備費

拠点施設の整備と言うよりは、全体構想作成費用やマーケティング、市場調査

#### 部会運営費

部会を多く開催。部会員の研修（島前の方が島後を見ていないので、その研修のバス代）  
と京都博物館館長さんからアドバイス（今後整備する拠点施設について）をもらうため  
に 3 回来島してもらったための増。

#### マップリーフレットの作成

外国人観光客が増えている。あちこちのイベント等色々な場所ですす機会が多く増版。  
フランス語版の作成し、国外にも出す。

#### 啓発用資材

横断幕を隠岐世界ジオパークに名称変更したことでの、空港名称の変更による看板のや  
り替えによる。

#### プロモーションビデオ

今編集しているので、編集後後 4 月から皆様に配布したい。隠岐で外国人が楽しく遊ん  
でいるというイメージで作成しており、旅行会社、イベントで活用してもらい誘客に繋  
げて行く。

#### ジオフェスタの費用の増

出展者増による旅費増

#### ジオ給食、モニターツアー

当初計画をしていなかったが、住民への周知により関心を高めたく、新しく補正として  
あげた。モニターツアーについては、東京の企業の社長さんを対象として実施。一般の  
観光客だけでなく、社員研修の場として隠岐を使ってもらうため。モニターツアーにつ  
いては、観光庁の事業の中での条件。

A4 縦の資料の事業について（ページ無し）

赤の事業が地方創生交付金を使っている。

以上で質問は無いですか？

(齋藤)

負担金の JGN, JGC は納金があるが具体的には何に使われているか？  
マーケティング調査の結果があれば知りたい。

(野辺)

負担金は、GGN10 万、28 からユネスコに直接支払いになる。JGN については世界ジオパークが 20 万、日本ジオパークが 10 万となっているが、日本ジオパークや世界ジオパークの認定や審査をするときの審査会の旅費（先生方）に活用。活動支援金については、JGC から委員の人に来てもらっている旅費と謝金（全体構想を作るときなど）。JGN の費用で JGC の活動をみている。

モニター調査については、今集計中。昨年 3 月の新聞に県内の人が隠岐を知っている割合が 9 割、うち 2 割の人しか来ていないのはなぜか？の市場調査をしたところ、「知っている」は 9 割あるが、「行ったことがない」が 8 割～7 割。その理由として、「行き方が分からない」「何があるのか分からない」という意見があり、改めて情報発信に努めないといけない。今集計しているので、結果はまた伝えます。我々としては情報発信しているようで、県内の人に伝わっていない。

(齋藤)

ネットワークと委員会のつながりが分からないところがあるので、分かり易く説明して頂きたい。金額が少ないので、中身が何か質問した。本来だともっと各ジオパークから資金を集めてブランド化などネットワークがしないといけないのではないかと思う。色々な所が学習会などもしているが、委員会が中身を見て確認するなど必要では無いか分科会に入っても中身が良くなかった、霧島の大会などでも。中身を決めているところがしっかりしていないといけない。組織上がどうなっているのか確認したい。

(野辺)

JGN・・・日本ジオパークに認定されている地域の連絡会

JGC・・・日本ジオパーク委員会。審査をする。地理学会などから学会推薦で出された方 11 名で構成される審査をするところ。

年会費が 20 万だが、JGN の事務局長は糸魚川が出し、人件費 1 千万は糸魚川が負担。本来はネットワークがそれぞれもう少し負担する必要がある（40 万～50 万くらい）が 1 町でしているところはなかなか出せない。事務局長会議の中で会費のことや運営体制に



ついて今検討しているところ。今後わかりやすい組織体制にしていけないといけ  
ないので、体制図を作っていけないといけないと事務局長会議で申し合わせをしてい  
る。糸魚川が中心にジオパークの活動が始まっており、市長の強い思いがある。

(齋藤)

JGN と JGC は関係があるか？

(野辺)

JGN と JGC は全く違う組織。

世界ジオパークには別の審査会があるので、日本ジオパークにならないと世界ジオパー  
クになれない。

(横地)

そんなことをやっても仕方ない。前に進まない。

(総会)

H27 年度収支決算見込みについて承認

(仲吉)

議事運営は一括で説明した後で意見をもらって欲しい  
議事進行を円滑にするために。

(総会)

承認

(野辺)

資料 P 3 4

#### 1. 事務局体制について

H28.4.1～西ノ島から派遣されている職員に変わり知夫から

H29. 4. 1～協議会を任意団体から一般社団法人にするための準備

日本ジオパークの再審査、H29 年度の世界ジオパークの再審査に向けて事務が増えるの  
で、隠岐の島町観光協会 1 名と隠岐の島町から地域おこし協力隊を 1 名入れていきたい。  
また、フランスを中心としたヨーロッパからの観光客が増えて居ることから、島根県が  
ヨーロッパからの国際交流員を採用し、入れていきたい。協議会体制の充実を図ってい  
きたい。

#### 2. 日本ジオパーク再認定審査

3. ユネスコ世界ジオパーク再認定審査の申請  
申請書を来年の2月までに作成
4. 第7回ユネスコ世界ジオパーク会議への参加  
イギリスのジオパークでユネスコの正式事業化になって初めての国際会議  
ネットワークへの貢献が求められるので他のジオパークと連携して宣伝したい
5. 第7回日本ジオパークネットワーク全国大会への参加  
伊豆半島の全国大会で分科会の司会進行などをやっていく
6. 部会運営事業  
全体構想を作る中で、作成委員会から一般の方を部会員に加えてもらえないかという  
意見があったので、参画してもらい、より周知していきたい
  
7. 人材育成事業  
改めて教育を中心にした人材育成をしていきたい。今年度94回ジオパーク講座開催し  
たなかで、集会所でしたのは15件。島内には120近い集会所がある。  
有償ガイド育成は来年度、2級とレベルを上げた講座を開催する予定。  
H28年度は松江市でのジオ検定をして誘客へつなげたい。  
島民の意識調査（どれくらい関心があるか、無いか）を調査して、さらに意識を高め  
る取り組みをしたい。
  - ・スピーチコンテスト  
国際会議では英語が話せないとアピールしにくい。中学生や高校生の子どもの頃から  
しないといけない。そうした人材の育成のため。優秀者には国際会議でPRしてもら  
いたい。先日の土日で、隠岐高校生、島前高校生たちが英語キャンプをしたが、これ  
を継続したい。英語を中心とした学校教育の振興を図りたい。
  
8. 情報発信事業  
フランス語版を追加、整理していきたい。  
バーチャルジオツアーのポイントを追加していく。  
ヨーロッパのネイティブを配置し、ヨーロッパへの情報の発信をしていく。
  
9. 企画・広報宣伝事業
  - ・プロモーションビデオを編集
  - ・長編映像で、昨年、コンピューターグラフィックで摩天崖、通天橋などのでき方を説  
明するものを作り学校等に配布したところ好評だった。隠岐の不思議な植物分布がな  
ぜなのか、説明できるようなものを作って行きたい。
  - ・ジオフェスタは、松江市からの誘客を中心に開催します。山陰中央新報社が運営にな  
った。それまでは、山陰放送が2年間していた。

- ・ジオ講座をすると半数近くの人が隠岐に来ている。好評なので、できるだけ多くの地域（米子・鳥取、関東）で開催して、誘客に繋げて行きたい。
- ・隠岐世界ジオパークシンポジウムの開催は、今年は、11月19日 海士町で開催。
- ・ジオ関連商品開発への助成  
ジオパークを使った旅行商品、商品開発などに対してパッケージの費用や開発費用の助成。制度を作っているのので、4月から活用して頂き、新しい隠岐ジオを使った取組をして頂きたい。
- ・ジオパーク認定店の設置  
隠岐の人に隠岐の事を語って頂きたい。飲食店、理髪店などにジオ講座を受講して認定店とし、看板などを設置する。

## 10. 調査研究

トカゲ岩などの奇岩を3Dプリンターを使い、子供たちが触れる模型を作る。  
研究論文については、過去5年間で隠岐をフィールドとした論文がいくつ出ているかが再認定時の評価の対象となっているので、引き続き募集していく。

## 11. 世界認定記念日事業

世界認定の日には何らかの活動をして「自分たちで隠岐を守っていくんだ」と思えるように。9月9日1時間でも一斉に隠岐を綺麗にする活動などをして欲しい。これについては各島まわって話していきます。また海岸漂着ゴミなども新しくするのではなく、今やっているものや、ジオパーク講座と合わせてやるなど既存のイベントと併せて周知を図っていく。

## (4) H28当初予算

### 収入について

地方創世交付金10分の10の事業の五千万を充てている  
活性化交付金・・・3月18日に採択の可否が分かる。  
現在五千万分を入れ込んでいる事業の項目としているので、18日以降の採択によって金額等の見直し等が必要となるかも。

### 支出について

隠岐の島町観光協会から派遣により、人件費増

### 事業費について

拠点施設整備の減は、全体構想を27年度作成し、28年度はなしのため  
マップリーフレット・・・日・英・仏を作る  
一昨年、マンガ・ガイドブックを作り広報に努めていたが無くなったのでの増刷。ガ

イドブックも併せて。(今後販売したいので、収入経常する見込み)

長編映像は、2本作成し、国内の博物館等でも放映してもらえるようなものにして、配布。

島外でのジオパークのPRでは、島民の参加がシンポジウムだと人が集まらないので、有名な人を呼んで参加してもらおう。

予算を1億1千万にしているのは地方創生交付金が付いた場合。

採択結果によっては補正する。

(向濱)

長編映像の作成は、島の生い立ちとか諸々ということですが、学術的根拠を明確にする必要があると思いますが、裏付けを取られましたか？

(野辺)

島大地質や生物の先生に監修してもらおう。学校教育の中で、こうゆう長編映像を見ながら子どもたちに学んでもらう。基本的には学校で使ってもらうが、それだけではもったいないので他のところにも放映してもらいたい。また、イメージとして一般の方に伝わりにくいので、出来方についてよりリアルに勉強できるようにしたい。そしてガイドにも使っていきたい。

H28年度予算については宜しいでしょうか。

(総会)

H28 予算承認

(5) 規約の一部改正

ユネスコの方から隠岐は「隠岐ユネスコ世界ジオパーク」と来ているので、これに伴い協議会の名称をどうするか皆さんにお図りしたい。事務局としては、正式名称を「隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会」とさせて頂き、略称として「隠岐世界ジオパーク推進協議会」や「隠岐ジオパーク推進協議会」等を使いたいが、どうでしょうか。

(総会)

承認

(野辺)

名称を「隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会」にさせて頂きます。それに伴い、規

約を変更します。P46.P45 に正誤表を付けているので、ご確認ください。

また協議会に新たに、JA しまね隠岐島前地区本部、隠岐島前森林組合、JF しまね西郷支所、海士町漁協協同組合の 4 団体が参画。

#### 資料 P48 アドバイザーの名簿

アドバイザーは島大の地球資源環境学の先生に多く入ってもらっていたが、学校教育の中でどうやってジオパークを使うかと言うところで、教育学部の専門家の松本先生も加わってもらった。

資料 P50.51 部会員規約についてもユネスコを入れたものに変更。部会員に一般の方が少ないので、各機関から推薦をいただき、入っていただくようにしたい。

改めて、協議会の名称と規約の変更について承認頂けますか。

(総会)

承認

#### □全体構想について

具体的な工程表（31 年までの行動計画）と本文を併せて全体構想とさせていただきます。

4 月以降公開し、パブリックコメントもらい、5 月以降まとめて学校などに配布する。全体構想の中で 1 つだけ具体的に説明させていただきます。全体構想本文 P 6 4, 6 5 で、ジオパークを活用して住民の意識を上げる、更に島に訪れた方が隠岐ジオパークはどう結うところか分かってもらう為に新しく施設整備することが必要。場所として港周辺に拠点施設を整備。西郷港周辺には中核施設を整備。

資料 P 6 6 で中核施設が担う主な機能について紹介。ジオ協が中核施設の中に入っていく予定。P 6 7 整備年次計画。隠岐の島町は西郷港周辺に新しく施設整備する。海士町は場所の選定中。場所が決まり次第、全体構想の中に入れる。P69 以降に具体的なイメージ図を付けている。隠岐の島町が作る施設は港の駐車場の右側部分で、P70 に立体部分があり、1 階にジオ協が入っていく。P72 では体験スペース部分だけが 3 階になっている。これは、あくまでも協議会がスペースとして必要な部分を要求しており、今後隠岐の島町で具体的に検討していく。まだ決定ではないので、これを参考に今後基本設計に入る。

西ノ島は第 2 ターミナル 2 階が中国電力の展示施設となっているが、ここを更に充実させて西ノ島としての整備をしていく。

## P72 来居港の整備図面

知夫村は新しく整備する来居港 2 階に整備。

(横地さん)

拠点施設の絵を出すとこのまま一人歩きするので、もう少し早く教えて欲しい。

(野辺)

赤字で参考までにとしている。

(横地)

これを出す前にもう少し協議させて欲しい。話を聞いてないのに、断りだけではよくない。出すと一人歩きしてしまう。

(野辺)

赤字で書いているが、今後隠岐の島町とある程度協議をした結果である。全体構想の本文や行動計画については、また 5 月末頃まで皆さんの意見を取り入れて整備していきたい。

(横地)

折角立てるなら 1 箇所集中させるなど考えることが必要ではないか。

(松田会長)

早く全体構想を作る中なので、中身はまだまだこれからなので、ジオ協として今回はこのような形でお願いをさせてもらっている。

(野辺)

全体構想については、是非皆さんから協議会へご意見をいただきたいので、宜しくお願いします。

全体的なことで、ご質問はありませんか？

(齋藤)

今年度も来年度もマーケティングの予算がついているが、今後の PR とかの集客を早くやっつけていかないといけないが、交流人口の中身が何であるか知る事が重要ではないかと思う。公共工事の人や読売旅行団体が西ノ島に入ったことなどの要素があって増えていると思う。近年山歩きのお客さんが増えている。何が増えて何が減っているのか要因を調

べて今後努めて言って欲しい。フランス人が増えたのは、3つのガイドブックの掲載が大きいのは分かるが、今までの15年の分析などをして、季節ごとの構想を立てて欲しい。

(野辺)

今まで基礎となるデータがなかったので、隠岐観光協会とジオ協と連携してアンケート調査をしている。その結果、今までは隠岐に来た人の満足度が低いのではないかと考えていたが75パーセントの人が満足と答えています。隠岐の満足度は高く、その分リピーター率も高いです。それでは、なぜ隠岐へ来ないのかというと、情報が伝わっていないことで誘客がはかられていないのではないかとということになり、今年度の調査を含めて新しく観光戦略を各町村の観光協会と連携してやっていきたい。全体構想の中で目標数値を挙げている。交流人口数を今まで具体的な数値を挙げていなかったが、14万人を目標にした。達成して、15万を目標していくところですが、宿泊施設の稼働率(部屋数)から割り出した数値です。満足度調査は、今74パーセントなので、80パーセントに持っていく。H28年度のアンケート調査をもとに目標を設定していく。これまで根拠となるデータがなかったため、具体的な観光施策や戦略が作成されなかった。それを元に素早く対応したい。

他に質問はありませんか？

最後会長挨拶

今後どうやってジオパークを交流人口拡大に繋げるかが大きな課題。全国の離島ブームからここに至っているが、宿泊施設が衰退してきている。そこでリニューアルや耐震化が必要だとなり、後継者に更に借金をさせて継続することは大変だという企業が出てきている。いくら頑張っても宿泊施設がなければダメです。例えば民宿でおじいさん、おばあさんの名前でやっていて、亡くなったら施設基準に合わないから出来ないなどではいけない。個人施設であっても公共施設とかわりないので、行政が国や県と一緒にあってあるべき支援をして頑張ってもらおう。そういう意味で国や県に働きかけていく。どうやって宿泊施設を確保していくかがこれからの課題。そういうことをやらずにジオパークをやっていくのではうまく行かないので、そうした議論ももう必要となっている。事務局長は日本ジオパークの中でも欠かせない人になっているので、事務局長任せにならないように、各島でプロパー人材を育成していかないといけない。自分の事として受け止めて、3町村のご理解とご協力をお願いしたい。

4.その他事項